

道連ニュース

2011年新春号 No.66

北海道生活協同組合連合会

〒003-0803 札幌市白石区菊水3条4丁目1-3

全労済北海道会館内

TEL 011-841-8601 FAX 011-841-8605

URL: <http://www.doren.coop>

新年のご挨拶

国際協同組合年を迎えて

会長理事 麻田 信二



謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年、3月11日東日本大震災とそれに伴う東京電力福島第一原子力発電所の重大事故が発生し、これを契機に、これまでの反省に立って、今後の日本の進むべき道や私たちの生き方を考えさせられる年でした。

また同時に、北アフリカや中東のイスラムの国々における民主化の動きとギリシャの財政危機から端を発したEUユーロ圏の経済金融不安が起きました。

日本はバブル経済の破綻以来、経済の長期低迷が続いていますが、アメリカの財政問題など、先進工業国である日米欧の経済の先行きが極めて不透明で、閉塞

感に包まれています。

今年、国連が定めた国際協同組合年ですが、生協には、食料と水、エネルギーの地域自給や福祉といった事柄に指導的な役割を果たす事が求められており、様々な問題を皆で解決し持続可能な平和な社会を築いていくのが、生協の使命でもあります。

今年一年が、生協運動の大きく前進する年となり、北海道生協連に集う皆様にとりまして、より良き一年になることを心から願っております。

総会代議員数・団体加入規約及び中間報告を議論

～第3回道連活動見直し検討委員会を開催～

河原さつぼろ高齢者福祉生協理事長ら委員会メンバー全員が参加のもと第3回道連活動見直し検討委員会が開催されました。

総会のあり方では、①会費基準の見直しにも連動し（＝会員の構成組合員数のみの基準ではなく、諸条件を勘案し）た柔軟性の確保、②総会参加者にとって講演会・交流会等の有意義な企画の用意が必要との見解でした。

③定款を補足する団体加入規約では予定ですが、理

事会での議決は新規加入の出資の場合は500万円、年間会費の場合は120万円を上限に総会より付託を受ける内容としています。

④中間報告では連合会の機能についての議論の継続が必要とした上で、定款・規約の変更や暫定会費の幾つかの試案を呈示しています。

今後は理事会での議論が1月からスタートし6月の通常総会で一定の結論をもつことが予定されます。

地方消費者グループ・フォーラムが開催されました

11月29日、札幌市内にて消費者グループ・フォーラム実行委員会と消費者庁との共催で、「地方消費者グループ・フォーラム in 北海道」が消費者問題等に携わる行政・専門家・消費者団体などが参加して開催されました。実行委員会はNPO法人ホクネット、北海道生協連、コープさっぽろなど10団体の構成です。

フォーラムでは、「放射能と食品」をテーマに水産庁管理官の森田貴己氏が講演。水産研究所における主な放射能調査や水産生物における放射性物質などについて解説、東日本大震災での福島第一原発事故における放射能問題について水産物への影響などデータを基に専門的な立場からお話されました。

次ぐ「地域の取り組み報告」では、12地方自治体・

団体・企業から「消費者行政の取り組み、学校教育や地域における消費者教育、消費者被害防止、多重債務者救済など盛り沢山の活動が報告。コープさっぽろから「買い物弱者のための移動販売」、北海道労働金庫から「多重債務者の救済」で報告がありました。サブタイトルの「守ろう！共に生き、支え合う社会を」を確認し合うフォーラムでした。



昨年に次ぎ第2回地方フォーラムを開催

◆生活クラブ生協◆

～福島からの一時避難支援活動～「戸外で遊ぼう！涼しく遊ぼう！北海道で夏休み13日間」
そして「チェルノブイリ・ハート」上映会、「チェルノブイリ～福島まで」写真展を開催！

日本中を震撼させた3.11東日本大震災と福島原発事故による放射能汚染！！

厳しい現地のニュースを見聞きしつつも、何も出来得ぬもどかしさの中で行動を起こさねばと決意し、福島で被災された生活クラブ組合員5家族16名を、一時避難支援活動として札幌に招待しました。少しでも放射能の不安から解放され、子ども達におもいきり大自然の中で遊んでもらおうと、行程13日間の「夏休み企画」を計画しました。

「外遊びが大好きなのに、恐ろしくて3ヶ月も外に出ませんでした。誘って戴いて嬉しい」と涙ぐみ挨拶されたお母さん。滝野すずらん丘陵公園、石狩浜海水浴、手作りの夕食交流会、YOSAKOI指導等もあり飾らない生活クラブらしさの心を込めた歓迎を。その後、一人ひとりの絵文字付きの寄せ書き一杯の礼状が届き、心から喜んで貰えたことが何にも代え難い嬉しい便りでした。

10月には『チェルノブイリ・ハート』上映会を企画。福島原発事故による放射能汚染の不安等もあり、会場

は溢れるほどの盛況さで、終了後、今こそ、この映画をもっともっとたくさんの人達に見て欲しいと言う声が寄せられました。



旭山動物園を見学する福島の生協クラブ組合員の家族

11月には『チェルノブイリから福島への広河隆一写真展』を開催、チェルノブイリ原発事故10年後に少女が白血病を併発、…そして、悲しい知らせが…。希望に満ち、楽しい将来の夢を果たせぬ間々散りゆく罪無き少女たち！福島、岩手の子ども達の将来がとても心配です。そして、現在、『さようなら原発1000万人アクション』の全国行動として、原発を廃炉に追い込んで行くための勢力的な署名活動を展開中です。

コープさっぽろ

国際森林年記念講演会

～C.W. ニコルと森を考える～ 11月18日

今年「国際森林年」。幅広い市民のみなさんと共に森について考え、森の魅力と価値を見出し、植樹祭や森とのふれあい企画に参加したくなる講演会を、国民的知名度が高く、国際森林年国内委員でもあるC.W.ニコル氏をお招きして開催しました。

ニコルさんは「心に木を植えよう」と題し、「森は人の心を豊かにする」「北海道のみんなが美しい森を作る心になったら素晴らしい」など、自らの長野県黒姫での活動を映像を交えて紹介しました。

「幽霊森を買って草を刈り、木を間引きし、川を掃除して、木を



参加者650名に森の魅力を話すC.W.ニコル氏

手入れして、10%の光が通るようにすると、風も通り、地面が元気になる、木も育つ。花が咲き、昆虫が集まる。鳥が来て種を落として、サイクルが廻る。絶滅危惧種も29種類、鳥は百種、熊も5頭。森は水の母。森の中にいると、美しい、面白い、楽しい、不思議がいっぱい。森が回復すると心も回復する」との話に引き込まれ、森の価値と魅力が実感できました。

アンケートでは「講演は良かった」が98%を占め不満は一人もいなく、感想欄には「ニコルさんの話に感動した」「とても面白かった」「有意義な時間を過ごせた」「久しぶりに良い話を聞いた」「森の大切さがよくわかった」「森について友人や家族に話したい」「私も活動を始めたい」「森づくりに参加したい」「涙があふれた」「考えさせられた」といった言葉が多く見られ、参加者にとっても評価の高い講演会でした。

お知らせ

役員・幹部職員研修会及び税務経理講習会のご案内

日時 2012年2月3日(金)午前10時～午後3時
会場 全労済北海道会館 会議室(札幌市白石区菊水3条4丁目)
参加費 1500円※資料・昼食代として

(内容)

- ①役員・幹部職員研修会 午前10時～午後3時
午前：『生協への期待』講師 田中 重至氏(前日生協経理委員・前コープこうべ理事)
午後：『生協のコンプライアンスとガバナンス』講師 三宅 充氏(前日生協会員支援本部)
- ②税務経理講習会 午前10時～午後12時 *午後は、①研修会と合同です。
『2012年度税制改正・税務調査の対応及び税務経理担当者の資質』講師 三宅 充氏